

施策の総合評価の考え方について

1 第1期計画における評価の課題

(1) 施策評価の最終目的

施策目的である「水源環境保全・再生することにより良質な水の安定的確保」の達成状況を評価する。

(2) 第1期における課題

- ◇ 個々の事業における林分単位のモニタリングに限定。
 - ⇒ モニタリング箇所での成果は確認できたが、事業箇所全体に対する成果の広がりが不透明。
 - ⇒ それぞれのモニタリング項目毎の成果分析は行われたが、モニタリング結果の相互解析、相乗的な成果が不十分。
- 例) 植生とリターの合計被覆率と土壤移動量の関係等

2 第2期計画以降の評価の考え方

(1) かながわ県民会議（施策調査専門委員会）からの意見

- ①単に事業毎の評価ではなく、施策全体を通じた総合解析・評価が必要
- ②県民に分かりやすい評価の打ち出しが必要

(2) ワークショップによる検討結果

①施策評価の視点

- 施策の実施による効果（変化）を3つの視点で評価する。
 - ・水源地域の状態の変化や機能の改善を評価（状態評価・機能評価）
 - ・上記の水源地域の変化を金銭的価値で評価（経済評価）

②森林における施策評価の観点

- <必須>本来のねらいである“水源”環境や機能の改善の評価
- <追加>施策により森林生態系の要素がどう変わったかの評価
- ※実施前・実施後の比較、実施箇所・非実施箇所の比較により評価

(3) 時系列を踏まえた評価の考え方

	第1期	第2期	第3期	第4期
状態評価	(森林の保全・再生) ◇ 林床植生：被覆率及びリター被覆率 ◇ 土壤移動量 ◇ 光環境：開空度 (河川の保全・再生等) ◇ 水質（BOD、COD等） ◇ 生活排水負荷軽減量（理論値） ◇ 地下水（水量、水位、水質）	(森林の保全・再生) ◇ 林床植生：被覆率及びリター被覆率、出現種 ◇ 土壤移動量 ◇ 光環境：開空度 ◇ シカの生息密度 (河川の保全・再生等) ◇ 出現種（底生動物、魚類等） ◇ 水質（BOD、COD等） ◇ 生活排水負荷軽減量（理論値） ◇ 地下水（水量、水位、水質）	(森林の保全・再生) ◇ 林床植生：被覆率及びリター被覆率、出現種、草丈 ◇ 昆虫相 ◇ 土壤移動量 ◇ 光環境：開空度 ◇ シカの生息密度 (河川の保全・再生等) ◇ 出現種（底生動物、魚類等） ◇ 水質（BOD、COD等） ◇ 生活排水負荷軽減量（理論値） ◇ 地下水（水量、水位、水質）	(森林の保全・再生) ◇ 林床植生：被覆率及びリター被覆率、出現種、草丈 ◇ 階層構造：低木、亜高木層樹間密度 ◇ 昆虫相、土壤生物、アンブレラ種 ◇ 土壤移動量 ◇ 光環境：開空度 ◇ シカの生息密度 (河川の保全・再生等) ◇ 出現種（底生動物、魚類等） ◇ 水質（BOD、COD等） ◇ 生活排水負荷軽減量（理論値） ◇ 地下水（水量、水位、水質）
機能評価	(森林の保全・再生) ◇ 対照流域：各流域特性の事前モニタリング・シミュレーションモデルの整備 ◇ 人工林の荒廃度調査	(森林の保全・再生) ◇ 対照流域 ・シカ管理による効果 ・測定項目：林床植生、土壤移動量、水収支 ・流域モデルによる効果シミュレーション ◇ 人工林荒廃度調査	(森林の保全・再生) ◇ 対照流域 ・シカ管理、人工林整備による効果 ・測定項目：林床植生、土壤移動量、水収支、藻類 ・流域モデルによる効果シミュレーション ◇ 人工林荒廃度調査	(森林の保全・再生) ◇ 対照流域 ・シカ管理、人工林整備等による効果 ・測定項目：林床植生、土壤移動量、水収支、藻類、底生生物 ・流域モデルによる効果シミュレーション ◇ 人工林荒廃度調査
経済評価		◇ 主に状態評価指標を基にしたCVM等による経済評価 ・成果に対する満足度評価 ・将来予測に対する投資評価	◇ 主に状態及び機能評価指標を基にしたCVM等による経済評価 ・成果に対する満足度評価 ・将来予測に対する投資評価	◇ 主に状態及び機能評価指標を基にしたCVM等による経済評価 ・成果に対する満足度評価